



Title	ラルテー語における動詞語幹の交替
Author(s)	大塚, 行誠
Citation	言語文化研究. 2019, 45, p. 161-178
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/71637
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ラルテー語における動詞語幹の交替

大塚 行 誠

Verb stem alternation in Ralte

OTSUKA Kosei

This paper presents verb stem alternation in Ralte, a northern Kuki-Chin language of the Tibeto-Burman family. Most Ralte verbs have two phonologically distinct forms occurring in different types of clauses, which is a distinguishing grammatical feature of Kuki-Chin languages. In the first part of this paper, the author briefly describes some morphosyntactic features related to the verb stem alternation in Ralte, and in the latter half, he provides a list of Ralte's basic verbs with pairs of alternate verb stems, namely, "Form I" and "Form II". Since little has been reported or surveyed on this endangered language, this research is expected to directly contribute to the study of the Ralte language and its speakers.

キーワード：記述言語学，チベット・ビルマ語派，チン語支，危機言語，ミゾラム

1. 言語の概要

ラルテー (Ralte) 語はチベット・ビルマ語派のチン語支に属する。

ラルテー語話者のコミュニティは、インド共和国北東部のミゾラム州アイゾール (Aizawl) 一帯に点在している (図1参照)。

ミゾラム州において「ラルテー」は氏族名のひとつとして広く知られている。「ラルテー」という氏族名を持つ者は3万人近くいるが、その大半がミゾラム州における公用語の一つ、ミゾ (Mizo) 語¹⁾を母語としている。Simons and Fennig eds.



図1 ミゾラム州および州都アイゾールの位置

1) ミゾ語はチン語支に属する言語であり、ルシャイ (Lushai) 語またはドゥッリアン (Duhlian/Dulien) 方言とも呼ばれる。「ミゾ」という民族名は、ミゾラム州住民の総称として使われることが多い。

(2017)によれば、2007年の時点におけるラルテー語の話者数は僅か900人程度にすぎない。

ミゾラム州に住むラルテー語話者の多くはラルテー語のほかにも、ミゾ語を流暢に話すことができる。ラルテー語を不自由なく話すことのできる者は60代以上の高齢者に限られる(Chhange 2011)。その為、昨今、ミゾラム州内においてラルテー語は「消滅の危機に瀕した言語」の一つとして認識されつつある(ミゾラム大学 R.L. Thanmawia 教授私信)。

本稿では、ラルテー語の動詞語幹に2つの形式が存在することを指摘した上で、その形態・統語的な特徴を明らかにする。

2. 調査の概要

2.1 先行研究

ラルテー語の音韻と文法について記述言語学的な観点から記述した文献資料には、管見の限り、Grierson (1904)、大塚 (2015)、大塚 (2016a, 2016b) がある。

2.2 調査地点と調査日時

筆者は2017年2月27日から3月10日までの12日間と2018年2月13日から18日までの6日間、アイゾール市ボンコーン (Bawngkawn) 地区でラルテー語の動詞に関する調査を行った。

2.3 調査協力者

メイン・インフォーマントは1946年7月生まれの男性、ラルラムザウヴァ・ラルテー (Lalramzauva Ralte) 氏である。氏はラルテー語の高い運用能力だけでなく、ラルテー語話者の文化や社会に関する豊富な知識も持つことから、言語学や人類学を専門とする現地研究者から厚い信頼を集めている。さらに、自らもラルテー語の記録と保存に貢献する為、Ralte Study Forum ed. (2012) や Ralte (2017) の出版等、意欲的に執筆活動を進めている。

2.4 調査方法

はじめに、服部 (編) (1957) と藪 (1982) の基礎語彙調査票をもとに基本動詞のリストを作成し、各動詞語幹における2つの形式を抽出した。次に、Chhange (1986)、Chhange (1993)、L.V. Zahnuna (2013) に記載のあるミゾ語をラルテー語に翻訳した上で、どのようなタイプの節において動詞語幹の交替が見られるのか考察した。

2.5 表記

ラルテー語にはミゾ語の正書法とよく似たラテン文字による表記法があり、ラルテー語とミゾ語の対訳例文集 (Ralte 2005, Ralte 2017) やラルテー語による新約聖書 (Ralte Study Forum ed.

2012) 等, 様々な書籍で用いられている。しかし, この表記法には声調を示す記号が無い。本稿では, ラルテー語の発音をなるべく正確に表す必要がある為, 筆者が独自に考案した音素表記 (§ 2.6) を用いる。

2.6 音韻

2.6.1 音節構造

ラルテー語の音節構造は (C1)V(C2)(C3)/Tと表すことができる。Cは子音, Vは母音, /Tは音節全体にかぶさる声調である。

2.6.2 子音

頭子音 C1を表 2-1 に示す。但し, そり舌音の t と t^h の出現頻度は低い。

表 2-1 頭子音音素

p p ^h b	t t ^h d	(t[t]) (t ^h [t ^h])	k k ^h
m	n		ŋ
	r		
f v	s z		h
	l	ʔ	

C2のロットには p, t, k, m, n, ŋ, r, l, y[j], w のいずれかが入り, C3のロットには声門閉鎖音 ʔ のみが入る。但し, C2と C3が共起する場合, その組み合わせは rʔ, lʔ, yʔ, wʔ に限られる。

2.6.3 母音

単母音には i, i:, e[ɛ], e:[ɛ:], a, a:, o[ɔ], o:[ɔ:], u, u: があり, 二重母音には ia, ua がある。

2.6.4 声調

声調素には上昇調 (4), 低平調 (4), 下降調 (4) の3つがある (例 (1)a.-c. 参照)。但し, 短母音で終わる開音節はどれも低平調で現れるようである (例: sa:kor[馬])。

(1) a. sa:4	b. sa:4	c. sa:4	d. sa?_	e. tap_sak_
[sa:4]	[sa:4]	[sa:4]	[sa?4]	[tap4sak4]
‘歌う’	‘肉’	‘熱い’	‘厚い’	‘囲炉裏’

末子音-?の閉音節 (例 (1)d. 参照) および韻母が短母音と末子音 -p, -t, -k から成る閉音節 (例 (1)e. 参照) は原則として低いピッチ [4] で現れるが, 低平調の後に続く場合は高いピッチ [1]

になる点で注意が必要である(例(2)b.参照)。このような音節に現れる調値をまとめて「_」と表すが、これを声調素と見なすか否かについてはまだ結論を得ていない。

(2) a. $\eta\text{o:}y\downarrow$ =o?_	b. $\text{so}y\downarrow$ =o?_	c. $\text{ke}N$ =o?_
[$\eta\text{o:}j\downarrow$ o?↓]	[$\text{so}j\downarrow$ o?↓]	[$\text{ke}N$ o?↓]
$\text{silent}^{\downarrow}$ =IMP	say^{\downarrow} =IMP	go^{\downarrow} =IMP
‘黙れ。’	‘言え。’	‘行け。’

上昇調の後に下降調が続くと、先行の上昇調は低平調に交替する点にも注意が必要である(例(3)参照)。

(3) $\text{t}^{\text{h}}\text{ey}\downarrow$	+	=ow\	→	$\text{t}^{\text{h}}\text{ey}\downarrow$ =ow\
know^{\downarrow}		=NEG		know^{\downarrow} =NEG
‘知る’		‘～しない’		‘知らない’

2.7 文法

文末に述語が来るという制約が強い。自動詞文の基本語順はSV(例(4)参照)、他動詞文の基本語順はAPV(例(5)参照)と表すことができる。

格標示は能格型標示をとる。A相当の名詞句には能格助詞=in\ (例(5)参照)を付加するが、S相当またはP相当の名詞句には格助詞を付加しない(例(4),(5)参照)。

(4) $\text{do}\backslash\text{va}\downarrow$	=ke:\downarrow	a\=	kap_- =u?_
PR	=PL	3=	cry^{\downarrow} =PL
‘ドヴァたちは泣いた。’			

(5) $\text{t}^{\text{h}}\text{a}j\backslash\text{a}\downarrow$	=in\	$\text{teo}:\downarrow$	a\=	$\text{su:m}\downarrow$
PR	=ERG	meal	3=	cook^{\downarrow}
‘タンガがご飯を作った。’				

人称標示には自立語の人称代名詞と人称接語がある(大塚 2016b)。人称接語は名詞の前に付加して所有者の人称を表すほか、述語動詞の前後に付加して主語あるいは目的語の人称との一致を示すこともある(例(6),(7)参照)。但し、複数を表示するには、人称接語に加え、複数を示す助詞=u?_を付加しなければならない(例(4)参照)。

- (9) {ka:l= vok_ teo:l piak:l} a:l= ku:l:l
 1= pig food give^{II} 3= necessary^I
 ‘私の豚に餌をやることを必要とする。(意識：私の豚に餌をやる必要がある。)’

- (10) ka:l= zin:l suŋ\ =un\ hua?_ a:l= zu:l
 1= travel^{II} middle =PL.CONJN rain 3= rain^I
 ‘我々が旅をしている最中に雨が降った。’

- (11) koŋ\ a:l= siat:l =po?_ =in\ ka:l= kel\ =tʰow\ =viŋ\ =u?_
 road 3= bad^{II} =even.if =CONJN 3= go^I =still =FUT =PL
 ‘道が悪くても、我々は行く。’

一部の名詞は動詞と同様の特徴を持つ。例えば、以下の (12)a. の mi:hiŋ\ 「人間」と (13)a. の pa:li:\ 「四」は通常どちらも名詞として用いられるが、名詞化助詞 =na:\ を付加することができ、語幹が交替するという動詞的な特徴を見せることもある (例 (12)b., (13)b. 参照)。こうした現象はミゾ語にも見られる (Chhangte 1993: 75, 82)。

- (12) a. mi:hiŋ\ a:l= hi:l
 human 3= COP^I
 ‘人間である。’
 (12) b. mi:hiŋ\ =na:\
 human^{II} =NMLZ
 ‘人間らしさ’
- (13) a. a:k\ pa:li:\ ka:l= deŋ?_
 hen four 1= want^I
 ‘私は、鶏が四羽欲しい。’
 (13) b. a:k\ pa:li:l =na:\ ka:l= deŋ?_
 hen four^{II} =NMLZ 1= want^I
 ‘私は、四番目の鶏が欲しい。’

3.1.2 名詞修飾表現

ある動詞が名詞を修飾する際、形式 I の動詞を用いると被修飾名詞が動詞の主語にあたることを示し、形式 II の動詞を用いると被修飾名詞が動詞の主語ではないことを示す。

(14) から (16) の文は、Chhangte (1986: 225-227) にあるミゾ語の文をラルテー語に翻訳したものであり、各文には修飾部の動詞と主要部の被修飾名詞が含まれる。修飾部には名詞修飾を示す特別な標識は現れない。以下の例文では、主要部を太字で示し、修飾部と主要部から成る部分を { } で囲んで示す。

主要部は修飾部の前後どちらにも現れうるほか、主要部が修飾部に内在する形で現れる場合もある (例 (14), (15) 参照)。但し、道具や場所を表す名詞が主要部となる場合、主要部は修

飾部の後に現れ、修飾部には名詞化助詞 =na:ʌ を付加する (例 (16) 参照)。

修飾部の動詞が形式 I である場合、その動詞の主語にあたる「少女」が主要部になる (例 (14) 参照)。修飾部の動詞が形式 II である場合は、非主語名詞が主要部になる (例 (15), (16) 参照)。例 (15) は被動作者の tʰiŋʌ 「木」、例 (16) は道具の se:ŋʌ 「かご」が主要部にあたる。

- (14) {nu-ŋa:kʌ se:ŋʌ =a:ʌ tʰiŋʌ puakʌ} =hi:ʌza:ʌ kaʌ= mu:ʌ
 maiden basket =INS wood carry^I =DET 1= see^I
 ‘かごで木を運んでいる少女を私は見た。’

- (15) {nu-ŋa:kʌ se:ŋʌ =a:ʌ tʰiŋʌ puakʌ} =hi:ʌza:ʌ kaʌ= mu:ʌ
 maiden basket =INS wood carry^{II} =DET 1= see^I
 ‘少女がかごで運んでいる木を私は見た。’

- (16) {nu-ŋa:kʌ tʰiŋʌ puakʌ =na:ʌ se:ŋʌ} =hi:ʌza:ʌ kaʌ= mu:ʌ
 maiden wood carry^{II} =NMLZ basket =DET 1= see^I
 ‘私は少女が木を運んでいるかごを見た。’

3.1.3 疑問語疑問文

疑問語が文中の主語にあたる場合、形式 I の動詞を用いる (例 (17), (18) 参照)。

- (17) i:ʌ =ha:ʌ hiʌ =ka?_
 what =Q become^I =PRF
 ‘何が起こったの? (どうしたの?)’

- (18) ku:ʌ =inʌ =ha:ʌ a:yʌ= samʌ
 who =ERG =Q 3 > 1= call^I
 ‘誰が私を呼んだの?’

疑問語が文中の主語にあたらな場合は形式 II の動詞を用いる。以下の (19) から (21) にその具体例を示す。例 (19) と (20) では被動作者を表す非主語名詞が疑問語になっており、例 (21) では場所を表す非主語名詞が疑問語になっている。このように、疑問語が主語以外の名詞である場合には、述語動詞は形式 II で現れる。

- (19) i:A =ha:A naI= ne:kI =a:ŋI
 what =Q 2= drink^{II} =PURP
 ‘君は何を飲む?’

- (20) ku:A =ha:A naI= t^ha?_
 who =Q 2= kill^{III}
 ‘君は誰を殺したの?’

- (21) k^hoyI =a?_ =ha:A aI= tee:nI
 where =LOC =Q 3= live^{II}
 ‘彼はどこに住んでいるの?’

3.1.4 結合価増加との関連性

形式Ⅱは結合価増加にも関与すると考えられる。結合価増加接辞を付加した動詞は必ず形式Ⅱで現れる。代表的な結合価増加接辞のうち、裨益接辞 -sak_ (例 (22)b. 参照), 随伴接辞 -puy?_ (例 (23)b. 参照), 「～を後にして～する」という意味で放置を示す接辞 -sanI (例 (24)b. 参照), 使役接辞 -ti:kI (例 (25)b. 参照) を用いた例を以下に示す。

- | | |
|--|---|
| <p>(22) a. korI aI= leyI
 dress 3= buy^I
 ‘彼は服を買った。’</p> | <p>b. korI a:yI= leyI-sak_
 dress 3 > 1= buy^{II}-BEN
 ‘彼は私に服を買ってくれた。’</p> |
| <p>(23) a. korI aI= leyI
 dress 3= buy^I
 ‘彼は服を買った。’</p> | <p>b. korI a:yI= leyI-puy?_
 dress 3 > 1= buy^{II}-COM
 ‘彼は私と共に服を買った。’</p> |
| <p>(24) a. kaI= kelI
 I= go^I
 ‘私は行った。’</p> | <p>b. inI kaI= kelI-sanI
 house I= go^{II}-RELINQ
 ‘私は家を残して行った。’</p> |
| <p>(25) a. kaI= kelI
 I= go^I
 ‘私は行った。’</p> | <p>b. a:yI= kelI-ti:kI
 3 > 1= go^{II}-CAUS
 ‘彼は私に行かせた。’</p> |

3.2 形態的特徴

形式 I と形式 II の間には以下のような声調、末子音、母音の交替が見られる。

3.2.1 2つの形式間で声調のみが異なる場合

形式 I は下降調または低平調で現れ、形式 II は上昇調で現れる（例 (26)–(42) 参照）。

	形式 I	形式 II	意味
(26)	ni:ʎ	ni:A	「笑う」
(27)	tei:pʎ	tei:pʎ	「固い」
(28)	ho:tʎ	ho:tʎ	「挽く」
(29)	pu:kʎ	pu:kʎ	「貸す」
(30)	va:kʎ	va:kʎ	「白い」
(31)	suaʎ	suaʎ	「悪い」
(32)	keʎ	keʎ	「行く」
(33)	omʎ	omʎ	「ある」
(34)	hiamʎ	hiamʎ	「鋭い」
(35)	so:nʎ	so:nʎ	「押す」
(36)	minʎ	minʎ	「熟した」
(37)	tɛ:rʎ	tɛ:rʎ	「瘦せた」
(38)	tʰarʎ	tʰarʎ	「新しい」
(39)	sa:wʎ	sa:wʎ	「長い」
(40)	tʰa:wʎ	tʰa:wʎ	「太った」
(41)	ta:yʎ	ta:yʎ	「晚い」
(42)	luyʎ	luyʎ	「古い」

3.2.2 2つの形式の間で韻母 (rhyme) が異なる場合

現調査段階では、データが不足している為に声調との相関性まで明らかにすることはできなかった。しかし、なるべく大まかな声調のパターンも見られるように例を提示する。

[1] 形式 I が末子音を持たない場合

形式 II は末子音 -t, -k, -ʔ を持つ形で現れる（例 (43)–(52) 参照）。

	形式 I	形式 II	意味
(43)	siaʎ	siatʎ	「吐き出す」
(44)	huaʎ	huatʎ	「嫌う」
(45)	bo:ʎpʰa:A	bo:ʎpʰat_	「直す」
(46)	na:ʎ	nat_	「痛い」
(47)	ha:ʎ	hakʎ	「着る」
(48)	tea:ʎ	tekʎ	「食べる」
(49)	ta:A	takʎ	「落ちる」
(50)	sa:A	sak_	「建てる」
(51)	mu:A	muʔ_	「出会う」
(52)	tʰi:ʎ	tʰiʔ_	「死ぬ」

[2] 形式 I が末子音を持つ場合

形式 I と形式 II の間で見られる末子音の交替を以下の表 3-1 にまとめた。それぞれの具体例を (53) から (80) に示す。末子音 -ŋ を持つ形式 II の動詞は見つかっていない。

表 3-1 末子音交替のパターン

形式 I 末子音	形式 II 末子音	参照例
-ŋ	-n	(53), (54)
-ŋ	-t	(55), (56)
-m	-p	(57), (58), (59)
-n	-t	(60), (61), (62)
-l	-lʔ	(63), (64)
-r	-rʔ	(65)
-y	-yʔ	(66), (67), (68)
-w	-wʔ	(69), (70)
-w	-ʔ	(71), (72)
-p	-ʔ	(73), (74)
-t	-ʔ	(75), (76)
-k	-ʔ	(77), (78), (79), (80)

	形式 I	形式 II	意味
(53)	za:ŋʌ	za:nʌ	「軽い」
(54)	kʰuŋʌ	kʰunʌ	「座る」
(55)	ka:ŋʌ	kat_	「燃える」
(56)	maŋʌ	mat_	「使う」
(57)	ha:mʌ	hap_	「欠伸をする」
(58)	samʌ	sap_	「呼ぶ」
(59)	oŋsamʌ	oŋsap_	「簡単だ」
(60)	panʌ	pat_	「始める」
(61)	donʌ	dot_	「答える」
(62)	manʌ	mat_	「掴む」
(63)	kʰe:lʌdu:nʌ	kʰelʔ_dut_	「遊ぶ」
(64)	teo:lʌ	teolʔ_	「休む」
(65)	tea:rʌ	tearʔ_	「付ける」
(66)	la:yʌ	layʔ_	「掘る」
(67)	na:yʌ	nayʔ_	「近い」
(68)	ŋa:yʌdamʌ	ŋayʔ_damʌ	「許す」
(69)	la:wʌ	lawʔ_	「怖がる」
(70)	za:wʌ	zawʔ_	「広い」
(71)	zowʌ	zoʔ_	「終わる」
(72)	tʰowʌ	tʰoʔ_	「起きる」
(73)	ka:pʌ	kaʔ_	「撃つ」

(74)	kap_	kaʔ_	「泣く」
(75)	zo:tʌ	zoʔ_	「訊ねる」
(76)	tʰat_	tʰaʔ_	「殺す」
(77)	teuakʌ	teuaʔ_	「跳ねる」
(78)	ziakʌ	ziaʔ_	「書く」
(79)	hamʌ suakʌ	hamʌ suaʔ_	「猟に行く」
(80)	zak_	zaʔ_	「恥ずかしい」

[3] 母音の交替

[1]と[2]で述べた交替と連動する形で母音の交替も見られる。形式Ⅰの長母音は形式Ⅱにおいて短母音で現れる傾向にある(例(81)–(83)参照)。さらに、「形式Ⅰの母音：形式Ⅱの母音」と表すとすれば、ua:o(例(84)参照)とia:e(例(85)参照)という母音交替が見られる。

	形式Ⅰ	形式Ⅱ	意味
(81)	na:ʌ	nat_	「痛い」
(82)	sa:ʌ	sak_	「建てる」
(83)	tʰi:ʌ	tʰiʔ_	「死ぬ」
(84)	pʰuanʌ	pʰot_	「泡立つ」
(85)	lianʌ	let_	「大きい」

3.2.3 2つの形式が同形である場合

動詞のうち、末子音-ʔで終わるものは形式Ⅰと形式Ⅱが同形である(例(86), (87), (88)参照)。また、韻母が短母音と末子音-p,-t,-kから成るものの一部も形式Ⅰと形式Ⅱが同形である(例(89), (90), (91)参照)。

	形式Ⅰ	形式Ⅱ	意味
(86)	kʰuʔ_	kʰuʔ_	「咳をする」
(87)	hiʔ_	hiʔ_	「教える」
(88)	herʔ_	herʔ_	「締めつける」
(89)	tʰap_	tʰap_	「ざらざらした」
(90)	hit_	hit_ (hiʔ)	「重い」
(91)	tʰak_	tʰak_	「痒い」

4. 2つの動詞語幹のデータ例

今回の調査で用いた基本動詞リストは合計344語の動詞から成る。しかし、紙面の都合上、本稿で全部を掲載することはできない。そこで、服部(編)(1957)の最重要項目に挙がっている語の中からラルテー語に翻訳可能であり、かつ動詞に分類できるものを例として示す。

「番号」の欄には服部(編)(1957)にある整理番号を記し、「見出し語」の欄には日本語のほ

か、現地調査で媒介言語として使用した英語とミゾ語の訳を記す。

以下のリストの中には名詞と動詞から成る慣用句も含まれる。その場合は、名詞と動詞の間にスペースを置き、後続する語のほうが動詞であることを明示する。

表 4-1 ラルテー語の基本動詞に見られる 2 つの形式

番号	見出し語 (日本語; 英語; ミゾ語)	ラルテー語	
		形式 I	形式 II
6.	盲目だ; blind; del	delɬ	delɬ
9.	耳が聞こえない; deaf; bengngawng	beŋŋoŋɰ	beŋŋoŋɬ
16.	息をする; breathe; thaw	tʰo:ɬ	tʰo:kɬ
18.	せきをする; cough; khuh	kʰu?_	kʰu?_
19.	くしゃみをする; sneeze; hahchiau	ha?_siawɬ	ha?_siawɬ
20.	あくびをする; yawn; hām	ha:mɬ	hap_
46.	跛 ^{びこ} をひく; limp; ke bāi	ke:ŋɬ ba:yɬ	ke:ŋɬ ba:yɬ
57.	見える; see; hmu	mu:ɬ	mu?_
58.	嗅ぐ; smell; hnīm	namɬ	nap_
59.	聞こえる; hear; hria	tʰeyɬ	tʰey?_
60.	笑う; laugh; nui	ni:ɰ	ni:ɬ
61.	泣く; cry; tap	kap_	ka?_
62.	叫ぶ; shout; au	a:wɰ	aw?_
64.	着る; wear; ha	ha:ɬ	ha:kɬ
65.	脱ぐ; take off; phelh	pʰel?_	pʰel?_
70.	縫う; sew; thui	kʰuyɰ	kʰuyɬ
81.	調理する; cook; chhûm	su:mɬ	sup_
82.	熟した; ripe; hmin	minɰ	minɬ
83.	食べる; eat; ei	tea:ɬ	tea:kɬ
84.	舐める; lick; liak	liakɬ	lia?_
85.	かむ; chew; thial	sialɬ	sialɬ
86.	飲む; drink; in	ne:ɬ	ne:kɬ
87.	吸う; suck; fāwp	teo:pɬ	teo?_
88.	吐く; vomit; luak	luakɬ	lua?_
89.	吐き出す; spit; chhāk	sia:ɬ	siatɬ
90.	腹が減る; hungry; tām	kiaɰ	kiaɬ
91.	喉が渴く; thirsty; tui hāl	ro:ɰ kowɰ	ro:ɰ kowɬ
92.	おいしい; tasty; tui	tuyɰ	tuyɬ
93.	甘い; sweet; thlum	tʰumɰ	tʰumɬ
94.	苦い; bitter; kha	kʰa:ɬ	kʰa:kɬ
95.	腐る; rotten; tawih	muatɬ	mua?_
97.	建てる; build; sa	sa:ɬ	sak_
104.	消す; extinguish; timit	ti:ɬmit_	ti?_mi?_
105.	燃える; burn (vi); kâng	ka:ŋɬ	kat_
106.	座る; sit; thu	kʰuyɰ	kʰunɬ

番号	見出し語 (日本語; 英語; ミゾ語)	ラルテー語	
		形式 I	形式 II
107.	転ぶ; lay down; tlu	tu:ɬ	tu:kɬ
108.	眠る; sleep; mu	ip_	i?_
109.	夢を見る; dream; mumangah hmu	i:\mu-ɬmaŋɬa?_ mu:ɬ	i:\mu-ɬmaŋɬa?_ mu?_
110.	起きる; rise; tho	t ^h owɬ	t ^h o?_
111.	立っている; stand; ding	diŋɬ	dinɬ
112.	閉める; shut (vt); close; khâr	k ^h a:kɬ	k ^h a?_
113.	開ける; open (vt); hawng	hoŋɬ	honɬ
114.	住む; live; chêng	t ^h ee:ŋɬ	t ^h ee:nɬ
120.	拭く; rub clean; hrufai	so:p ^h tea:yɬ	so?_ tea:yɬ
124.	生む; give birth; hring	hiŋɬ	hinɬ
125.	育つ; grow; thang	k ^h aŋɬ	k ^h anɬ
126.	生きている; alive; hring	hiŋɬ	hinɬ
127.	太った; fat; thau	t ^h a:wɬ	t ^h a:wɬ
128.	痩せた; thin; chêr	t ^h ee:rɬ	t ^h ee:rɬ
129.	疲れる; tired; hah	t ^h eo:lɬ	t ^h eo:lɬ
130.	病気だ; sick; dam lo	damɬowɬ	damɬowɬ
132.	痛い; ache; nâ	na:ɬ	nat_
133.	痒い; itchy; thak	t ^h ak_	t ^h ak_
134.	掻く; scratch; hiat	hiatɬ	hia?_
135.	治す; cure; tidam	tiɬdamɬ	ti?_ damɬ
136.	殺す; kill; that	t ^h at_	t ^h a?_
137.	死ぬ; die; thi	t ^h i:ɬ	t ^h i?_
139.	喧嘩する; quarrel; sual	sualɬ	sualɬ
140.	逃げる; run away; tâlno	ta:yɬbowɬ	ta:yɬbowɬ
141.	追いかける; pursue; zui	zuyɬ	zuyɬ
150.	若い; young; lanaupang	na:wɬpaŋɬla:yɬ	na:wɬpaŋɬla:yɬ
151.	年取った; old; kum tam	kumɬ tamɬ	kumɬ tamɬ
162.	撃つ; shoot; kâp	ka:pɬ	ka?_
163.	盗む; steal; ru	hu:ɬ	hu:kɬ
164.	働く; work; hna thawk	naɬ se:mɬ	na:ɬ sep_
165.	休む; take a rest; châwl	t ^h eo:lɬ	t ^h eoɬ?_
166.	剥く; peel; vel	velɬ	vel?_
167.	行く; go; kal	kelɬ	kelɬ
168.	来る; come; lo kal	hoŋɬkelɬ	hoŋɬkelɬ
169.	出る; go out; chhuak	suakɬ	sua?_
170.	入る; enter; lût	lu:tɬ	lu?_
171.	振り返る; change direction; inher	he:kɬdu:nɬ	he:kɬdut_
172.	止まる; stop; bâng	ba:ŋɬ	ba:nɬ
173.	歩く; walk; lêng	le:ŋɬ	le:nɬ
174.	走る; run; tân	ta:yɬ	ta:yɬ
175.	速い; fast; rang	raŋɬ	ranɬ

番号	見出し語（日本語；英語；ミゾ語）	ラルテー語	
		形式 I	形式 II
176.	遅い；slow；muang	muangʎ	muanʎ
184.	話す；speak；tawng	pa:wʎ	pa:wʎ
185.	言う；say；sawi	soyʎ	soyʎ
186.	尋ねる；ask；zâwt	zo:tʎ	zoʔ_
187.	呼ぶ；call；ko	samʎ	sap_
189.	遊ぶ；play；infiam	k ^b e:l ^h du:nʎ	k ^b elʔ_ dut_
190.	歌う；sing；sa	saʎ	sak_
191.	踊る；dance；lâm	la:mʎ	la:mʎ
192.	与える；give；pe	piaʎ	piakʎ
193.	出会う；meet；hmu	mu:ʎ	muʔ_
194.	待つ；wait；nghâk	ŋa:kʎ	ŋaʔ_
195.	殴る；strike；vua	vuaʎ	vuakʎ
196.	咬みつく；bite；seh	pet_	peʔ_
197.	取る；take；la	la:ʎ	la:kʎ
198.	持つ；hold；vuan	oʔ_	oʔ_
199.	掴む；grasp；man	manʎ	mat_
200.	放す；release；thlah	t ^h aʔ_	t ^h aʔ_
201.	投げる；throw；vawm	de:ŋʎ	de:nʎ (det_)
202.	触る；touch；dek	k ^h oyʔ_	k ^h oyʔ_
203.	こする；rub；nâwtfai	no:t ^h tea:yʎ	noʔ_ tea:yʎ
204.	振る；wave；vai	vayʎ	vayʎ
205.	押す；push；nam	so:nʎ	so:nʎ
206.	引っ張る；pull；hnûk	nu:kʎ	nuʔ_
207.	しめつける；squeeze；herh	herʔ_	herʔ_
208.	背負う；carry on back；pua	puaʎ	puakʎ
209.	蹴る；kick；pêt	pe:tʎ	peʔ_
210.	踏む；step on；rap	si:kʎ	siʔ_
211.	隠す；conceal；hliah	liaʔ_	liaʔ_
212.	探す；seek；zawng	zoŋʎ	zonʎ
213.	見つける；find；hmu	mu:ʎ	muʔ_
214.	見せる；show；entîr	en ^h ti:kʎ	en ^h ti:kʎ
215.	置く；put；dah	koyʔ_	koyʔ_
216.	集める；gather together；lakhâwm	la:k ^h o:mʎ	la:k ^h op_
217.	作る；make；siam	bo:lʎ	bo:lʎ
218.	壊す；break (vt)；tichhia	ti ^h siaʎ	tiʔ_ siatʎ
219.	直す；repair；siam ^h tha	bo:l ^h p ^h a:ʎ	bo:l ^h p ^h at_
220.	裂ける；torn；thlêr	t ^h e:rʎ	t ^h e:rʎ
221.	曲げる；bend；vawchhia	vo ^h siaʎ	vuak ^h siatʎ
222.	折る；break (as stick)；el ^h thliak	ulʔ_ tiakʎ	ulʔ_ tiaʔ_
223.	洗う；wash；sil ^h fai	sil ^h tea:yʎ	sil ^h tea:yʎ
224.	巻く；roll；zial	zialʎ	zialʎ

番号	見出し語（日本語；英語；ミゾ語）	ラルテー語	
		形式 I	形式 II
225.	結ぶ；tie; suih	suy?_	suy?_
226.	ほどく；untie; phelh	p ^h el?_	p ^h el?_
227.	かぶせる；cover; khuh	k ^h u?_	k ^h u?_
228.	ふくれる；swell; vûng	vu:ŋʌ	vu:nʌ
229.	突き刺す；pierce; chhun	sunʌ	sut_
230.	切る；cut; bung	bunʌ	bunʌ
231.	混ぜる；mix; pawlh	pol?_	pol?_
232.	掘る；dig; lai	la:yʌ	lay?_
233.	する；do; ti	se:mʌ	sep_
234.	動く；move; chô	li:ŋʌ	li:nʌ
235.	跳ねる；jump; zuang	teuakʌ	teua?_
236.	登る；ascend; lâwn	lo:nʌ	lo:nʌ
237.	降りる；descend; chhuk	suk_	suk_
238.	落ちる；fall; tla	ta:ʌ	ta:kʌ
239.	濡れる；wet; huh	nomʌ	nomʌ
240.	乾いた；dry; ro	kowʌ	kowʌ
241.	考える；think; ngaihtuah	ŋay?_tua?_	ŋay?_tua?_
242.	知る；know; hria	t ^h eyʌ	t ^h ey?_
243.	忘れる；forget; theihhngilh	t ^h eyʌŋilʌ	t ^h ey?_ŋil?_
244.	教える；teach; hrilh	hil?_	hil?_
245.	こわがる；fear; hlau	la:wʌ	law?_
246.	好む；like; duh	dey?_	dey?_
247.	喜ぶ；glad; lâwm	lo:mʌ	lop_
248.	怒る；angry; thin ur	la:yʌna:ʌ	la:yʌnat_
259.	凍る；freeze; khang	k ^h aŋʌ	k ^h anʌ
260.	溶ける；melt; tui ral	tuyʌralʌ	tuyʌralʌ
266.	明るい；bright; êng	e:ŋʌ	e:nʌ
267.	暗い；dark; thim	mo:kʌ	mo?_
269.	吹く；blow; chhêm	se:mʌ	se:mʌ
270.	暑い，熱い；hot; sa	sa:ʌ	sat_
271.	寒い，冷たい；cold; vâwt	da:yʌ	day?_
272.	暖かい；warm; lum	lumʌ	lumʌ
278.	泡立つ；bubble; phuan	p ^h uanʌ	p ^h ot_
279.	沈む；sink; pil	piʌ	piʌ
280.	浮かぶ；float; lâng	la:ŋʌ	la:nʌ
281.	流れる；flow; luang	luanʌ	luanʌ
298.	生える；come out; to	do:nʌ	dot_
299.	枯れる；wither; vuai	vuayʌ	vuayʌ
319.	飛ぶ；fly; thlâwk	le:ŋʌ	le:nʌ
320.	泳ぐ；swim; tui hleuh	tuyʌ leu?_	tuyʌ leu?_
321.	丸い；round; bial	biaʌ	biaʌ

番号	見出し語（日本語；英語；ミゾ語）	ラルテ語	
		形式 I	形式 II
322.	鋭い；sharp；hriam	hiamʌ	hiamʌ
323.	鈍い；dull；bil	bilʌ	bilʌ
325.	まっすぐな；straight；ngil	ŋi:lʌ	ŋi:lʌ
326.	大きい；big；lian	lianʌ	let_
327.	小さい；small；tê	ne:wʌ	ne:wʌ
328.	長い；long；sei	sa:wʌ	sa:wʌ
329.	短い；short；tawi	to:yʌ	to:yʌ
330.	厚い；thick；chhah	saʔ_	saʔ_
331.	薄い；thin；pan	panʌ	panʌ
333.	赤い；red；sen	sanʌ	sanʌ
334.	青い；blue；pawl	po:lʌ	po:lʌ
335.	黄色い；yellow；eng	enjʌ	enʌ
336.	緑色だ；green；hring	hiŋʌ	hinʌ
337.	白い；white；vâr	va:kʌ	va:kʌ
338.	黒い；black；dum	dumʌ	dumʌ
341.	強い；strong；chak	teak_	teak_
342.	弱い；weak；zawi	zoyʌ	zoyʌ
343.	正しい；right；dik	dik_	dik_
344.	良い；good；ṭha	pʰaʌ	pʰat_
345.	悪い；bad；sual	sualʌ	sualʌ
346.	すべっこい；smooth；tluang	tuangʌ	tuanʌ
347.	古い；old；hlui	luyʌ	luyʌ
348.	新しい；new；thar	tʰarʌ	tʰarʌ
349.	美しい；beautiful；hmêl ṭha	me:lŋpʰaʌ	me:lŋpʰat_
350.	清潔な；clean；fai	tea:yʌ	tea:yʌ
351.	汚い；dirty；bawhhlawh	bolʔ_loʔ_	bolʔ_loʔ_
352.	固い；hard；sak	tei:pʌ	tei:pʌ
353.	柔らかい；soft；nêm	ne:mʌ	ne:mʌ
364.	近い；near；hnai	na:yʌ	nayʔ_
365.	遠い；far；hla	lam:lʌ:l	lam:lʌt_
366.	高い；high；sâng	sa:ŋʌ	sa:nʌ
367.	低い；low；hniam	niamʌ	niamʌ
368.	深い；deep；thûk	tʰu:kʌ	tʰuʔ_
369.	浅い；shallow；thûk lo	tʰu:klowʌ	tʰuʔ_owʌ
370.	広い；wide；zau	za:wʌ	za:wʌ (zawʔ_)
371.	狭い；narrow；zîm	zi:mʌ	zi:mʌ
373.	満ちる；full；khat	dimʌ	dimʌ
380.	早い；early；hma	paʌ	paʌ
381.	晚い；late；tlai	ta:yʌ	ta:yʌ
393.	数える；count；chiar	siaʌ	siaʌ
409.	重い；heavy；rit	hit_	hiʔ_ (hit_)

番号	見出し語（日本語；英語；ミゾ語）	ラルテー語	
		形式 I	形式 II
410.	軽い ; light; zâng	za:ŋɔ	za:nɔ
411.	多い ; many; tam	tamɔ	tamɔ
412.	少ない ; few; tlêm	to:mɔ	to:mɔ
453.	ある ; exist; awm	omɔ	omɔ
454.	できる ; capable; thei	theyɔ	tʰey?_
455.	同じだ ; be the same; inang	baŋɔdu:nɔ	bat_dut_
456.	他の ; other; dang	daŋɔ	daŋɔ

略語一覧

1: 1st person, 2: 2nd person, 3: 3rd person, X > Y: the first X is the agent-like argument and the second Y is the patient-like argument (e.g. 3 > 1 may mean 3 acts on 1), -: morphological boundary (Segmentable morphemes are separated by hyphens.), =: clitic boundary, !: Form I, !!: Form II, A: agent-like argument of canonical transitive verb, BEN: benefactive, C: consonant, CAUS: causative, COM: comitative, CONJN: conjunction, COP: copula, DET: determiner, ERG: ergative, FUT: future, IMP: imperative, INS: instrumental, LOC: locative, NEG: negative, NMLZ: nominalizer, OBJ: object, P: patient-like argument of canonical transitive verb, PL: plural, PR: proper noun, PRF: perfect, PURP: purposive, Q: question, RELINQ: relinquitive (Peterson 1998: 100–101), S: single argument of canonical intransitive verb, T: tone, V: vowel/verb.

謝辞

長きにわたり筆者の言語調査に協力して下さったメイン・インフォーマントのラルラムザウヴァ・ラルテー (Lalramzauva Ralte, Pu Ramzauva) 氏, そして調査の過程で多くの御助言を下さったミゾラム大学ミゾ語学科のラルタンモーイア教授 (Prof. R.L. Thanmawia) のお二人に心より感謝の意を表します。万が一, 記述の内容や例文に誤りや誤字等があった場合, 一切の責任は筆者に帰します。なお, 本研究は, JSPS 科研費 JP26770136, 17K13442, 17H04523, 18H03599 の助成を受けています。

参考文献

- Chhangte, Lalnunthangi (1986) A preliminary grammar of the Mizo language. M.A. Thesis, University of Texas at Arlington.
- (1993) Mizo Syntax. Ph.D. Dissertation, University of Oregon.
- (2011) Preliminary phonology and morphology of Ralte (Mizoram). <http://sealang.net/neils/>

- archives/2011/abstracts.pdf [アクセス日：2018/9/20]
- Grierson, George A. (1904) *Tibeto-Burman Family: Specimens of the Kuki-Chin and Burma Groups. Linguistic Survey of India* 3 (3). Calcutta: Office of the Superintendent of Government Printing.
- 服部四郎 (編) (1957) 『基礎語彙調査票』東京：東京大学言語学研究室。
- Henderson, Eugénie J. A. (1965) *Tiddim Chin: A Descriptive Analysis of Two Texts*. London: Oxford University Press.
- Hillard, Edward J. (1974) Some aspects of Chin verb morphology. *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 1 (1): 178–185.
- L.V. Zahnuna (2013) *Translation book: English-Hindi-Mizo in Roman Script*. Aizawl: Sinngula & Sons.
- Matisoff, James A. (2003) *Handbook of Proto-Tibeto-Burman: system and philosophy of Sino-Tibetan reconstruction*. Berkeley: University of California Press.
- 西田龍雄 (1989) 「チン語支」 亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編) 『言語学大辞典 世界言語編 (中)』 2: 995–1008. 東京：三省堂。
- 大塚行誠 (2015) 「ラルテー語における音韻体系：ミゾ語及びティディム・チン語との対照的考察」 『東京大学言語学論集 電子版 (eTULIP)』 36: e49–e59.
- (2016a) 「ラルテー語の基礎語彙とテキスト」 『アジア・アフリカの言語と言語学』 (10) : 325–344.
- (2016b) 「ラルテー語の人称標示」 『東京大学言語学論集 電子版 (eTULIP)』 37: e19–e28.
- Peterson, David A. (1998) The morphosyntax of transitivity in Lai (Haka Chin). *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 21 (1): 87–153.
- Ralte, Khawitinthanga (2005) *Ralte ṭawng vawnṭhatna*. Aizawl: Thangkima Ralte.
- Ralte, Lalramzauva (2017) *Ralte ṭawng vawnṭhatna (Ralte pau vawn phatna)*. Aizawl: Ralte Welfare Committee, Hqrs.
- Ralte Study Forum ed. (2012) *Thuthung thar (Ralte pau)*. Aizawl: Ralte Study Forum.
- Simons, Gary F. and Charles D. Fennig (eds.) (2017) *Ethnologue: Languages of the World, Twentieth edition*. Dallas, Texas: SIL International. <http://www.ethnologue.com> [アクセス日：2018/9/20]
- VanBik, Kenneth (2009) *Proto-Kuki-Chin: A Reconstructed Ancestor of the Kuki-Chin Languages (STEDT Monograph 8)*. Berkeley: Sino-Tibetan Etymological Dictionary and Thesaurus Project.
- 藪司郎 (1982) 『アツィ語基礎語彙集』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。